

第2分科会

新たな学びを育むために ～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

報告者

- 菊池 誠氏 神戸大学 教養教育 院長／システム情報学研究科 教授
西野 毅朗氏 京都橘大学 経営学部 准教授
君島 菜菜氏 大正大学 教務部長／学修支援センター 特命准教授

コーディネーター

- 多田 泰紘氏 京都橘大学 経営学部 准教授



〈第2分科会〉

新たな学びを育むために ～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

コーディネーター

京都橘大学 経営学部 准教授

多田 泰紘

○本分科会のねらい

18歳人口の減少やVUCA社会の到来に対し、教職員は丸となって教育目標や中長期計画にもとづくカリキュラムの構築と再編に取り組んでいる。特に共通教育、教養教育の改革や自校の長所を生かした特色ある教育プログラムの展開が盛んに行われている。

そこで、本分科会では、神戸大学、京都橘大学、大正大学でのカリキュラム改革について3名の登壇者にご講演いただき、参加者の皆さまの大学で行われている取り組みや成果、今後へ向けた課題について議論を行った。

○報告の概要

分科会の司会進行は京都橘大学の多田が務めた。分科会の前半では、上記3大学の取り組み事例を全体で共有した。最初に神戸大学教養教育院長／システム情報学研究科教授の菊池誠氏から、神戸大学における教養教育改革の事例をご共有いただいた。長年に渡る改革のなかで、現場の教職員や履修する学生の状況を把握し、適した体制を構築してこられたその知見をご紹介いただいた。次に京都橘大学経営学部准教授の西野毅朗氏から、京都橘大学における共通教育科目の開発と実践についてご報告いただいた。特に1年生全学必修科目「たちばなBasis」において、開発に教職員が関わり、さらに運営には学生（ラーニングアシスタント）や外部業者も加わり、それぞれの視点でより良い授業づくりが展開されていた。最後に、大正大学教務部長／学修支援センター特命准教授の君島菜菜氏から、大正大学における全学必修の共通教育カリキュラムの改革と多様な人材によるカリキュラムの運営体制についてご講演いただいた。教育ビジョンを各科目のテーマに落とし込み、実現してきた工夫や、受講生の学びを支える学修支援体制について情報をご提供いただいた。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

分科会の後半では、参加者の所属大学における教養・共通教育の現状と課題についてペアで共有いただいたのち、3名の登壇者とフロアとで質疑応答が行われた。

質疑応答では、各大学での共通教育、教養教育の開発・実践における具体的な取り組みや工夫、そして各登壇者のカリキュラムマネジメントに対する考え方にまで質問がおよんだ。特に本分科会のテーマでもある“協働”についてフロアと登壇者との間で深い議論が展開された。

スライド1

2026年2月28日(土) 10:00-12:30 大学コンソーシアム京都 第31回FD・SDフォーラム
「2040年の京都の大学—我々はどう教え、学び、働いていくのか—」


第2分科会
新たな学びを育むために
～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

コーディネーター
多田 泰紘

スライド2

自己紹介

多田泰紘 ただ やすひろ



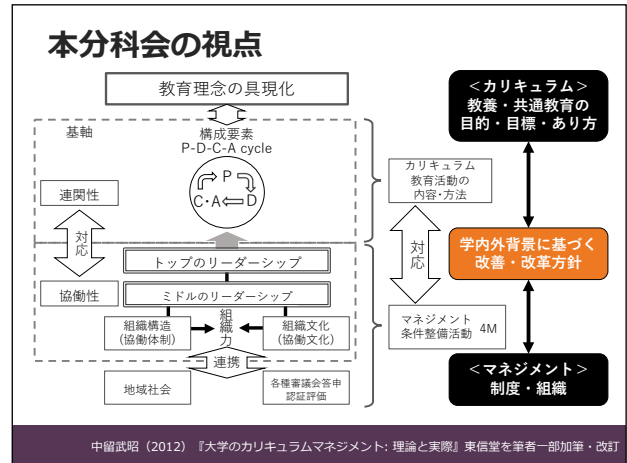
- 所属
京都橋大学 経営学部
教育開発・学習支援室
- 専門
大学教育、学習環境、学習支援
- 教育活動
学習支援と学部教育の接続、授業連携、
ラーニングcommonsの企画・運営など

スライド3

本分科会の目的

教養・共通教育カリキュラムの再編と実施の実際について、教職協働の視点をふまえつつ、登壇者ならびに参加者各位の大学での取り組みや成果を共有し、各大学の課題や今後の方向性を検討するための知見を得る。

スライド4



スライド5

本分科会のプログラム

10:00 趣旨説明
京都橋大学 経営学部 准教授 多田 泰紘

10:20 講演1.「神戸大学における教養教育改革」
神戸大学 教養教育 院長/システム情報学研究所 教授 菊池 誠

10:45 講演2.「教・職・学・外協働による全学必修共通教育科目の開発
と実践～たちばなBasisの事例報告～」
京都橋大学 経営学部 准教授 西野 毅朗

11:10 講演3.「全学必修の前期共通教育を支える教職・学修支援者の
協働～多様な人材と共に推進した大正大学の運営実践報
告～」
大正大学 教務部長/学修支援センター 特命准教授 君島 菜菜

11:35 休憩

11:45 全体議論・質疑応答

12:30 終了

スライド6

休憩

- 休憩終了後、お近くの方同士でお話しいただきます。
- 以下について、お考えいただければ幸いです。
 - ①3名の報告を聞いた上でのコメントや質問
 - ②自身の所属大学における教養・共通教育の現状と課題
* 大学に所属しておられない方や、教養・共通教育の現状を把握しておられない場合は、カリキュラムや教職協働について広くご意見いただければ幸いです。

全体議論・質疑応答

- **テーブルが近い人同士、2・3名で組んでください。**
(同じ所属でない方がよいかと思えます)
- **以下について、お話しください。**
 - ① ご所属、氏名、お立場
 - ① 3名の報告を聞いた上でのコメントや質問
 - ② 自身の所属大学における教養・共通教育の現状と課題
 - * 大学に所属しておられない方や、教養・共通教育の現状を把握しておられない場合は、カリキュラムや教職協働について広くご意見いただければ幸いです。
- **終了後、全体で質問やコメントを受け付けます。**

スライド1

神戸大学における教養教育改革

2025年度 第31回FD・SDフォーラム 第2分科会

新たな学びを育むために
～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

同志社大学・今出川キャンパス良心館
2026年2月28日

菊池誠
神戸大学 大学院システム情報学研究所 (専門: 数学、特に数理論理学)
教養教育院長

スライド2

神戸大学の概要

神戸大学の全体

- 学生16,000人 (学部11,500人、大学院 4,500人)
- 11学部15研究科
- 4地区 (六甲台、深江、楠、名谷) 7キャンパス (六甲台は4キャンパス) に展開
- 教員1,600人 (承継内1,200人)
- 事務系職員数1,000人 (うち病院を含む医学系 400人)

共通教育の実施体制

- 1年生は、1学年2,600人全員が、月曜日～木曜日は全学共通授業科目を履修、金曜日は専門科目を履修
- 2年生以降は、各キャンパスで専門科目を履修
- 大学教育推進機構教養教育院: 全学共通授業科目を実施
 - すべて六甲台地区・鶴甲第1キャンパスで実施
 - 教養教育院長 (1名)
 - 教育部会 (22) 構成員は各部局に所属する数十名程度
 - 教養教育委員会 (全学委員会)、教務・事業・評価FD専門委員会
 - 教務担当事務: 学務部学務課共通教育グループ7名 (非常勤職員を含む)
 - 開講コマ数: セメスター換算で約1,100コマ (非常勤講師500コマ)
 - 毎年約80,000件の成績評価

スライド3

教養教育改革の流れ

神戸大学 教養教育改革

- 1902年 神戸高等商業学校設立
- 1923年 旧制姫路高等学校設立
- 1954年 (新制) 神戸大学設立、神戸教養課程・姫路分校を設置
- 1963年 教養部を設置
- 1992年 教養部解体、大学教育研究センターを設置 (大学設置基準大綱化)
- 2004年 神戸大学と神戸商船大学が統合 (国立大学法人化)
- 2005年 大学教育研究センターを改組、大学教育推進機構・全学共通教育部を設置
- 2015年 全学共通教育部を改組、国際教養教育院を設置
- 2016年 教養教育改革、「神戸スタンダード」の導入
- 2022年 大学教育推進機構を改組、国際教養教育院を教養教育院に改組
- 2025年 教養教育改革 (第一段: 枠組みの修正)
- 2028年 教養教育改革 (第二段: 検討中: 中身の改訂)

(1992年以降、概ね12年毎に改革)

スライド4

92年改革

92年改革: 枠組み

- 全学共通授業科目 = 教養原論 + 外国語 + 健康・スポーツ科学 + 専門基礎科目
- 当時は国際がキーワード、国際文化学部・大学院国際協力研究科を92年に設置。

教養原論

- 教養原論 (人文)
 - 人間思想と文化: 人間と世界、行為と規範、心と行動、発達と教育
 - 文学と芸術: 日本の言語文化、世界の文学、芸術の思想と表現
 - 歴史と社会: 伝統と社会変動、近代日本の政治と社会、近代アジアと日本、人の移動と世界史
- 教養原論 (社会)
 - 人間と社会: 人間と環境、人間と文化、人間と社会集団、社会理論と思想
 - 現代社会と法・政治: 法と社会、法と国家、政治と社会
 - 現代社会と経済: 現代と経済、経済と社会、現代社会の発展
- 教養原論 (自然)
 - 自然と環境: 科学の発達と社会、環境と生物、地球と環境、環境とエネルギー
 - 自然の構造: 素粒子と宇宙、物質の組み立て、分子の世界、生命の科学
 - 数の世界: 数理構造と社会、情報と数理、数理解析と社会

92年改革: 問題

- 教養教育は国際化に失敗、強い危機感のもと教養教育改革へ。

スライド5

16年改革

16年改革: 枠組み

- 教養原論 (人文・社会・自然) を基礎教養科目・総合教養科目・高度教養科目に

神戸スタンダード (教養教育のDP)

- 複眼的に思考する能力: 専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通して複眼的なものの見方を身につける
- 多様性と地球的課題を理解する能力: 多様な文化、思想、価値観を受容するとともに、地球的課題を理解する能力を身につける
- 協働して実践する能力: 専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と、困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

教養科目の3区分

- 基礎教養科目 (1～2年次配当、全学共通) 自分が所属する専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する
- 総合教養科目 (1～2年次配当、全学共通) 多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、対話型の講義を取り入れるなどの工夫により、複眼的なものの見方、課題発見力を養成する
- 高度教養科目 (3～4年次配当、全学対象に各学部が実施) 専門の異なる学生が共通の課題について協働して解決方法を探ることにより、「分野融合」「文理融合」の意義、協働の大切さを学ぶ

スライド6

16年改革

16年改革: 高度教養科目の問題

- 学部間の調整がなく、独自に授業科目を開講し抽選登録等を実施するため、抽選結果次第で卒業単位が揃えられなくなる。
- 他学部向けは「基礎教養科目」と大した違いはなく、自学部向けは実質的に専門科目であり、いずれも「高度教養科目」の教育目標に対応していない。
- 大規模学部の学生が、小規模学部で開講される「高度教養科目」を履修するため、小規模学部の教育負担が大きい。

16年改革: 全体の問題

- 制度の矛盾への現場対応 (煩雑な履修制限等) が多く、事務作業量が膨大。
- 限られた配当授業科目からの抽選登録のため、希望する授業科目を履修できない。
- 遠隔地キャンパスの学生は2年生以降に履修が困難。
- 授業科目の多様化・細分化が進み、留学生・配慮学生への対応が困難。
- 他大学生・社会人等との共修が困難。
- 実際の授業科目の構成は必ずしも神戸スタンダードに対応していない。
- 学生も事務も教員も大変なだけで、神戸スタンダードの理念は実現されていない。(そもそも、神戸スタンダードに掲げられた素晴らしい能力など、数科目を履修しただけで身につけはくはない。)

スライド7

理想の追求と不備の改善

16年改革：制度の硬直化

- 「理念先行」で、理念を実現するために制度が作り込まれているため、**理念と制度が互いの制約となり、理念も制度も修正が困難。**
- 「共通教育の教育負担の均衡化」という積年の問題の解決も目指したため、**制約条件が極めて複雑になり、制度の修正はほぼ不可能に。**
- **現場（特に事務）は（改革にも、改革の後始末にも）疲弊。**

なぜ改革するのか

- 改革がうまくいかないのは「理念は良いのに、現場が働かない」からなのか？
- **二種類の改革：新しい大学像の描出 vs 制度の不備の改善**
- 確かに、新しい大学像は必要
 - 11世紀（ボローニャ・パリ）権威による**知識伝達の場**
 - 19世紀（フンボルト理念）学生と教師がラボで共に研究する**研究中心主義**（20世紀アメリカの「大学院の発明」へ）
 - 21世紀（欧米中）**外貨獲得の手段**（新しい経済成長分野：観光・医療・教育）
大学ランキングによる商品価値の向上
 - 今後（？）
- ただし、制度で「新しい大学像」を描くと、組織は硬直化する。
- **「制度による理想の追求」ではなく、「制度の不備の改善」を目指すべき。**

スライド8

25年改革

教育改革は必ず失敗する

- 社会問題・経済停滞は全て「教育の失敗」の結果とされ、教育改革が強要される。
- そもそも教育への要求は矛盾している。（例えば、自主性の賞賛 & 従順さの強要）
- 「完璧な教育制度などといったものは存在しない。」教育改革は必ず失敗する。
- 教育改革は永遠に続く。**大事なものは、理想の追求ではなく、改革コストの削減。**

25年改革：方針

- 学生の自主性を最大限に尊重し、学びたいものを学べる制度とする。
- 履修ミスを防ぎ事務作業を削減するため、極力例外を持たない単純な制度とする。
- 原則として現行の授業内容を修正せずに対応可能な改革とする。
- **現時点での完成度よりも、将来の改変の容易さを優先する。**

25年改革：新しい枠組み

- **基盤系**：教養の意義や目的・情報基礎・授業科目構成を紹介・全学必修
- **人文系・社会系・自然系**：各学問領域の基礎的内容
- **総合系（社会と環境・価値と創造・科学と技術・世界と日本）**：既存の学問領域には取まらない最近の話題（SDGs、価値創造、多文化間共修など）
- **外国語系**：英語 + 中国語・フランス語・ドイツ語・ロシア語から1言語
- **健康・スポーツ科学系**：心身の健康維持のための知識や技能
- **一番の特徴：新しくない。変わり映えない。（助成金は取れない。）**

スライド9

28年改革に向けて

システム情報学カレッジ（学部25年設置・大学院併設）の挑戦：共通教育から離脱

- 早期博士取得：学部学生150名、10%を3年で修士進学、2%を6年で博士取得へ
 - 短期専門基礎：通常1年の数学・物理学等を半年で修了、専門を前倒し
 - 反転教養教育：まず専門を学び、教養は3年次以降
 - 理数専門英語：高校理数科目を英語で、早期に海外学会派遣へ

教養教育・基礎教育・共通教育の違い

- 基礎教育：学問の基礎を育成
- 教養教育：世界観や価値観を涵養
- 共通教育：教育リソースを集約（人的・経済的コストの削減）

28年改革：方針（案）

- 基礎教育と教養教育を区別して共通教育で実施。**理念や内容に踏み込まない。**
 - **基礎教育**：高校文理別教育の弊害を補正、大学1年次に実施。授業科目を集約、授業科目の多様性から、開講形態の多様性へ。同一教育目標で大人数遠隔授業と少人数ゼミ等を展開、留学生・配慮学生対応のコストを削減。
 - **教養教育**：履修学年の制約を外し、大学院でも履修可能に。
学部生・大学院生・社会人の共修の効果も期待。
 - **共通教育**：コスト削減に繋がらないものは専門科目へ。

スライド10

おわりに

教職協働の教育改革

- **問題は現場（事務・教員）に集積、現場は改革のアイデアの宝庫。**
- しかし現場は、改革を嫌がる。「案をしたい」からなのか？
 - 改革ではなく不毛な仕事が嫌。理念先行だと「アリバイ作り」になりがち。
 - 成熟には時間が必要、制度改革は（一時的に）教育の質を確実に下げる。
- **改革は出発点ではなく、万策尽きた後の最終手段。**

二項対立の描く世界の限界

- **教養 vs 専門**
 - 大学はレジャーランド化、教養は無駄、「早期に専門教育」を。
 - 92年教養部解体を先導
- **知識 vs 能力**
 - 知識偏重の学問ではなく社会問題、「主体的、対話的で深い学び」を。
 - 16年改革を先導
- 二項対立のどちらを選んでも、二項対立を入れ替えても、うまくいかない。
 - そもそも「教養と専門」「知識と能力」は対立しない。
 - **二項対立で描かれる世界は真相。**

そもそも大学とは？教育とは？（真理の守護者？理想の実現？）

スライド1

**教・職・学・外協働による
全学必修共通教育科目の開発と実践
--たちばなBasisの事例報告--**

京都橘大学
西野 毅朗

スライド2

報告内容

- 報告者・大学の紹介
- 京都橘大学における共通教育改革の全体像
- 「たちばなBasis」の実態
- 今後の課題と展望

2

スライド3

報告者紹介 2026年1月20日発行

西野 毅朗 (Nishino Takero)

- 京都橘大学 経営学部 経営学科 准教授
教育開発・学習支援室 教育開発担当 専門教員
- 同志社大学大学院社会学研究科教育文化学専攻博士後期課程修了。
博士(教育文化学)。
- 専門：高等教育、高等教育開発
- 学外委員：日本高等教育開発協会副会長、日本私立大学連盟研修委員会委員長
- 連絡先：nishino-ta@tatchibana-u.ac.jp










3

スライド4

大学紹介

- 名称：京都橘大学
- 所在地：京都府京都市山科区
- 学生数：約7000人（男女比：約1：1）
- 専任教員数：約240人
- 専任職員数：約170人
- 沿革：
 - 1902年：学園創立
 - 1967年：大学設立
 - 2005年：共学化
 - 2026年：1学部3学科を新設し、10学部18学科に。




4

スライド5

**京都橘大学における
共通教育改革の全体像**

スライド6

教養（共通）教育改善・改革の流れ

- **【改善】教養教育カリキュラム（2021～2024）**
 - 2019年に改革に向けた号令
 - 2021年の新3学部（経済・経営・工）開設に向けて
 - 企画（職員）が原案を提案し、教員が修正・具体化する教職協働
 - 全学的な既存枠組みは変えられず（準備期間の短さ）
- **【改革】共通教育カリキュラム（2025～）**
 - 2022年に改革に向けた号令
 - 副学長をトップとしたプロジェクトチーム→WGで具体化→共通教育推進室で承認
 - 共通教育の目標、共通教育課程の枠組み・コンセプト等、ゼロから見直し
 - 東京工業大学（現：東京科学大学）のヒアリング、東北大学の視察
 - 原案作りから教職協働、科目運営の都合から学生・外部企業との連携前提

6

スライド 13

キャリア形成科目群

コンセプトを明確にして再構築
実践系科目を拡充

キャリア形成科目群

- キャリア開発リテラシー基礎
- キャリア開発演習
- 新時代のキャリア開発
- キャリア開発発展プロジェクトI~IV
- 就業体験準備実習
- 就業体験実習I
- 就業体験実習II
- クロスオーバー型課題解決プロジェクト
- 海外就業体験実習I
- 海外就業体験実習II

13

スライド 14

たちばなBasisの実態

14

スライド 15

たちばなBasis I・IIの特徴

- ほぼ全学科|年次、前・後期、必修科目、学科混合クラス
 - 2025年度受講者数：1667名（約32名×52クラス）※月曜1・2時間目
 - 8学部14学科（完成年度を迎えていない総合心理学部を除く全学科）
- 全学共通目標（教学理念）をテーマに設定
 - たちばなBasis I：「自立・共生・臨床の知を考える」
 - たちばなBasis II：「自立・共生・臨床の知を実践する」
- 遠隔の対面のハイブリッド型授業
 - 遠隔：議論するための知識を得る、問いについて考える（オンデマンド）
 - 対面：問いについて意見を共有・議論・発表する
- 遠隔授業は専任教員、対面授業は外部教員が担当
- 全クラスIAを1~2名配置し、主にグループディスカッションを支援
 - 2年次生~大学院生まで
 - 毎対面授業後に30分間のミーティング
- 多面的評価
 - 小テスト（24%）、レポート（20%）、授業中課題（36%）、授業中発表等（6%）、参加度（14%）
 - ※クラス間格差を減らすため、具体的な評価基準も全て設定

学年	1週目	2週目	3週目
A1(期)	第1回	第2回	第3回
C1(期)	(対面)	(対面)	(対面)
B1(期)	---	第1回	第2回
D2(期)	---	(対面)	(対面)

15

スライド 16

授業計画

回数	対面	対面	対面
第1回	遠隔	オリエンテーション1	
第2回	対面	オリエンテーション2	
第3回	遠隔	自立A多角的・客観的・論理的に考える1	
第4回	対面	自立A多角的・客観的・論理的に考える2	
第5回	遠隔	自立B思考し、判断し、表現する1	
第6回	対面	自立B思考し、判断し、表現する2	
第7回	遠隔	共生A他者の価値観を理解する1	
第8回	対面	共生A他者の価値観を理解する2	
第9回	遠隔	共生B他者と協力し、協調する1	
第10回	対面	共生B他者と協力し、協調する2	
第11回	遠隔	臨床の知知識を実践につなげる1	
第12回	対面	臨床の知知識を実践につなげる2	
第13回	遠隔	まとめ1	
第14回	対面	まとめ2	

回数	対面	対面	対面
第1回	遠隔	オリエンテーション1	
第2回	対面	オリエンテーション2	
第3回	遠隔	健康問題との向き合い方を考える1	
第4回	対面	健康問題との向き合い方を考える2	
第5回	遠隔	教育問題との向き合い方を考える1	
第6回	対面	教育問題との向き合い方を考える2	
第7回	遠隔	環境問題との向き合い方を考える1	
第8回	対面	環境問題との向き合い方を考える2	
第9回	遠隔	地域問題との向き合い方を考える1	
第10回	対面	地域問題との向き合い方を考える2	
第11回	遠隔	平和問題との向き合い方を考える1	
第12回	対面	平和問題との向き合い方を考える2	
第13回	遠隔	まとめ1	
第14回	対面	まとめ2	

16

スライド 17

たちばなBasis IIで自己評価に用いているルーブリック

具体的観点	5	4	3	2	1
多角的思考と表現	様々な問題について、多様な切り口を用いて、自分の言葉で説明できる。	問	様々な問題について、自分の言葉で説明できる。	問	自分の言葉で説明することは難しいが、様々な問題について考えている。
批判的思考と表現	信頼性の高い根拠を用いて考え、説得力を持たせて説明できる。	問	根拠を用いて考え、説明できる。	問	根拠を用いて考えることは難しいが、自分の考えは持っている。
論理的思考と表現	What、Why、Howといった問いを通じて、筋道だてて思考し、わかりやすく表現できる。	問	問いを立て、筋道だてて考えることができる。	問	筋道だてて考え、自分の考えは持っている。
傾聴力	聞きや相違など他者が話しやすい雰囲気をつくりつつ、質問を通じて相手の考えを引き出し、理解できる。	問	聞きや相違など他者が話しやすい雰囲気をつくることできる。	問	聞きや相違など他者が話しやすい雰囲気をつくるには至らないが、他所事をせずに耳を傾けることができる。
発信力	他者の意見を尊重してより良い考えを提案できるだけでなく、グループの考えをまとめて教室全体に向けて発信できる。	問	他者の意見を尊重して、より良い考えを提案できる。	問	自分の意見は伝えられない。
協働力	自身の役割を果たすことはもちろん、状況に応じて必要な事務を判断し、臨機応変に行動してグループに貢献できる。	問	自分の役割を積極的に担い、その責任を上手に果たすことができる。	問	与えられた役割を自覚し、その責任を果たすことができる。
知の理解	授業に起こっている問題に関心を持ち、学習の視点を用いて理解することができる。	問	授業に起こっている問題に関心を持ち、理解することができる。	問	授業に起こっている問題に関心は持っている。
知の応用	授業を繰り返していく中で、自分自身の知識・技能・態度をより深く、より高度なものへと発展させていくことができる。	問	授業を繰り返していく中で、自分自身の成長を実感することができる。	問	授業を通じて得た知識や考え方を、他の知識や自身の経験と結び付けて理解を深めることができる。
知の発見	授業を繰り返していく中で、自分だけでなく他者にとっても有益な新たな知を発見し、それを表現することができる。	問	授業を繰り返していく中で、自分にとっての新たな知を発見し、それを表現することができる。	問	授業を繰り返していく中で、自分にとっての新たな知を発見できる。

17

スライド 18

たちばなBasis I・IIの教職外協働—それぞれの視点

教育視点による関わり

経営視点による関わり

教員

職員

学生

外部

授業後MTG
「よりよい授業づくり」

学習者視点による関わり

運営視点による関わり

18

たちばなBasis I・IIの教職学外協働

①教員

- WG教員 (5名)
 - ・本科目のデザインメンバー
 - ・人文、社会、工学、医療の4者(教務部長を含む)+統括担当
 - ・WG解散後も、振り返りミーティングを実施
- 全体統括担当教員 (1名)
 - ・本科目のデザイン原案作成、シラバスの策定、教育に関する各種調整
 - ・LAの育成、LAとの協働による科目開発
 - ・本科目の最終責任者(不正行為のチェック、成績確定)
- 遠隔授業担当教員 (20名)
 - ・WGメンバー(教職員)が声かけ
 - ・1名あたり40分動画を、テーマ×自身の専門で作成
 - ・小テストおよび記述課題も作成

19

たちばなBasis I・IIの教職学外協働

②職員

- WG職員 (2名)
 - ・本科目のデザインメンバー
 - ・教務課長、教務課長補佐
 - ・各学部の開講調整、予算調整、クラス分け、教室確保、外部業者選定・調整、広報推進、LAの募集・採用手続きなど
- 全体調整担当職員 (1名)
 - ・教務課長補佐
 - ・科目“経営”に必要な事務仕事全体を担う(予算、広報、人材関係等)
 - ・LAの学内窓口/外部業者との教育面以外の調整
- 運営補助職員 (適宜)
 - ・全体調整担当職員の手が回らないところを適宜サポート

20

たちばなBasis I・IIの教職学外協働

③学生: Learning Assistant

- 遠隔授業の受講/課題提出
 - ・自分たちも経験しなければ支援はできない
- 授業支援
 - ・受講生への声かけ
 - ・アイスペイク
 - ・ディスカッションへの介入
 - ・対面授業担当教員との連携(受講生の様子の共有など)
- 授業後ミーティング(毎授業回30分)
 - ・Keep(良かった点)、Problem(改善点)、Try(次どうするか)
 - ・相談や提案の収集と対応(クラスというより科目全体での要対応事項)
 - ・受講生や教員、他LAとの関わり方の検討など

21

たちばなBasis I・IIの教職学外協働

④外部業者

- 対面授業の講師派遣・統括
 - ・13名+1名(緊急対応)の講師派遣と統括
 - ・講師との連絡窓口
- 全クラスのLMSの統括
 - ・遠隔授業、課題、諸連絡の配信
- LAの勤怠管理
 - ・職員と連携
 - ・給与支払いも委託(勤怠管理が複雑なため)
- 最終成績の集約
 - ・各評価基準に基づく評価結果のリスト化
 - ・クラス間に大きなGAPがないかの確認

22

1年目のたちばなBasis I・IIの振り返り

—学生インタビューにみる学修成果

今までだったら、1つの問いに対して1つの答えが出せたら満足していた。でも、この科目で様々な問いや複数のアイデアがあり得ることを学べた。たとえば「イノベーションで経営者が多く持っている」ということに対して「どこで?」と考えると、増えている場所と増えていない場所があるとか、では「どこ?」とすれば「増えている」とか考えると、移動手段や広域を工夫するなどアイデアがいろいろ出てくる。(工学部1回生)

「伝える」力が高まった。私が発言しても反応がなかったりする。伝え方がまずかったのかなと思う。他の人の発言やプレゼンを見て、具体例を交えたりするなど、伝え方を工夫して、自分以外の人がわかってもらえるよう意識するようになった。(工学部1回生)

自分はコミュニケーションに苦手意識を持っていたが、ディスカッションを通じて、むしろ得意な方ではないかと気づき、自信になった。いろいろな人と関わることも面白く感じられるようになった。そこから、清水寺近くのカフェでのアルバイトにも挑戦できた。特別支援学級の児童がボランティアにも関心が高かったため、ボランティアも始めている。(健康科学部1回生)

“書く”力が高まった。高校生までは、人の話も無反応で聞き流していることが多かった。この科目で、積極的に反応すれば相手もより多く話してくれることが分かった。相手の意見と異なることも、思い切って言ってみると受け入れてもらえるし、よりよい議論につながると思えるようになった。(文学部1回生)

1年間の科目であること、知識を修得しつつ学科横断でディスカッションできることの価値の確保

23

今後の課題と展望

- 共通教育全体としての課題
 - ・成績評価や授業アンケートによるアセスメントは半期に1回実施中
 - ・共通教育目標の到達度の測定が不十分
 - 専門教育課程も含めたカリキュラム全体としての評価と改善
 - *卒業時調査の項目改訂や、学修評価システムの改修が必要
 - 担当事務が異なるため、教職・職連携が重要
- たちばなBasisの課題
 - ・学生間の能力・意欲格差への対応
 - 対面授業の改善(教外連携による授業づくりの推進)
 - =標準スライドの改訂

基盤としての「たちばなBasis」と、総体としての教育課程の、不断の評価・改善を展望

24

スライド1

2025年度 第31回FD-SDフォーラム
 第2分科会 新たな学びを育むために～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

全学必修の前期共通教育を支える教職・学修支援者の協働
 ～多様な人材と共に推進した大正大学の運営実践報告～

大正大学 教務部/学修支援センター
 君島菜菜

2026年2月28日

スライド2

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

自己紹介

- 大正大学 教務部長
 教学マネジメント推進機構 学修支援センター 特命准教授
 FD副委員長
- 職歴: 社団法人エイジング総合研究センター 調査研究部門 研究員
 大正大学 全学副専攻 インストラクター・教員,
 教育開発推進センター所管教育支援課長,
 学修支援センター所管総合学修支援部長/FD委員
- 学歴: 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻 博士課程満退
- 日本高等教育開発協会(JAED) 正会員
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 プロジェクトフェロー
- 日本私立大学連盟 研修委員

2

スライド3

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

大学紹介

- 大正15年(1926)の創立 ※2026年は創立100周年!
 建学の理念「智慧と慈悲の実践」
- 東京都豊島区西巣鴨 ※池袋からバスで8分
- 学部生数:4,783名 ※令和7年5月1日現在
 本務教員数:155名, 本務職員数:184名
- 7学部13学科 ※令和8年度より情報科学部を新設
 仏教学部(仏教学科)、文学部(日本文学科、人文学科、歴史学科)、
 人間学部(人間科学科、社会福祉学科)、臨床心理学部(臨床心理学科)、
 表現学部(表現文化学科、メディア表現学科)、地域創生学部(地域創生学科、公共政策学科)、
 情報科学部(グリーンデジタル情報学科、デジタル文化情報学科)
- 2014年 教育開発推進センター 開設
- 2019年 総合学修支援機構DAC に改組
 2023年 教学マネジメント推進機構 学修支援センター に改組

3

スライド4

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

全学必修の前期共通教育カリキュラムの変遷

- 2014年 教育開発推進センター 開設
 → 前期共通教育担当の専任教員(教科科目に精通)が所属しTAを活用
 → 学修スキル(主にライティング)と学修基礎形成に重点を置いた全学共通カリキュラム編成
- 2019年 総合学修支援機構DAC に改組
 → 全学部を2つに分け、社会創造系学部群において前期共通教育のカリキュラムを改編
 → 探究、データサイエンス、リーダーシップをキーとしたカリキュラム編成
 → 探究科目において、教養と探究・学修スキルを旨とする統合型教養教育を実施
 → チューター(専任教員・臨時職員)を活用し、大教室にて教員2名体制のゲームデーティングによる学修支援に重点を置いた、チュートリアル教育を実施
- 2020年 知識集約型社会を支える人材育成事業 採択
 → 社会創造系学部群の前期共通教育を全学共通カリキュラムに拡大して実施
 → 総合学修支援部を教務部から独立させ全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制を確立
- 2023年 教学マネジメント推進機構 学修支援センター に改組
 → 改革期を経過し全カリキュラムを対象としたマネジメント機構の下部組織に位置づく

4

スライド5

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

1.大正大学の全学必修の前期共通教育カリキュラム

スライド6

MAKE YOUR UNIVERSE 大正大学

現旧全学必修の前期共通教育カリキュラム

	1年次		2年次	
旧	トランジション1 (基礎から学ぶ)	トランジション2 (大正入門)	トランジション3 (社会と学ぶ)	トランジション4 (大正から社会へ)
現	トランジション1 (基礎から学ぶ)	トランジション2 (大正入門)	トランジション3 (社会と学ぶ)	トランジション4 (大正から社会へ)
知の加工	知の加工権1 (基礎的読解)	知の加工権2 (基礎的読解)	知の加工権3 (基礎的読解)	知の加工権4 (基礎的読解)
知の加工	知の加工権5 (基礎的読解)	知の加工権6 (基礎的読解)	知の加工権7 (基礎的読解)	知の加工権8 (基礎的読解)
問いの探究	問いの探究1 (探究型授業・探究型授業)	問いの探究2 (探究型授業・探究型授業)	問いの探究3 (探究型授業・探究型授業)	問いの探究4 (探究型授業・探究型授業)
IBE	IBE-1 (Inquiry-based English)	IBE-2 (Inquiry-based English)	IBE-3 (Inquiry-based English)	IBE-4 (Inquiry-based English)
人間の探究	人間の探究I (大正から学ぶ)	人間の探究II (大正から学ぶ)	人間の探究III (大正から学ぶ)	人間の探究IV (大正から学ぶ)
社会の探究	社会の探究I (大正から学ぶ)	社会の探究II (大正から学ぶ)	社会の探究III (大正から学ぶ)	社会の探究IV (大正から学ぶ)
自然の探究	自然の探究I (大正から学ぶ)	自然の探究II (大正から学ぶ)	自然の探究III (大正から学ぶ)	自然の探究IV (大正から学ぶ)
データサイエンス	データサイエンスI (基礎的読解)	データサイエンスII (基礎的読解)	データサイエンスIII (基礎的読解)	データサイエンスIV (基礎的読解)
総合英語	総合英語I (基礎的読解)	総合英語II (基礎的読解)	総合英語III (基礎的読解)	総合英語IV (基礎的読解)

6

スライド7

前期共通教育と全学的教育ビジョンとの関係

MAKE YOUR UNIVERSITY 大正大学

大正大学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために現代社会に求められる「10の力」を定めている。

	他者に共感する力	物事の本質を見極める力	自分自身を理解する力	自分事として関心を立てる力	根拠に基づいて思考する力	自分らしい方法で表現する力	みずからの主眼を尊重する力	多様な意見を尊重する力	新たな価値を創造する力	他者と対話し、協働する力
人間の探究		○	○	○			○			○
社会の探究	○		○	○			○			○
自然の探究			○	○	○		○			○
リーダーシップ										
データサイエンス										
総合英語	○									○

スライド8

前期共通教育の教育内容(テーマと汎用的技能)

MAKE YOUR UNIVERSITY 大正大学

「10の力」の主な関連 科目とテーマ 初年度教育としてあつた内容・汎用的技能

- 自分自身を理解する力 → 人間の探究 (大学教育入門/自教教育 (高校から大学の学びの転換))
- 他者と対話し協働する力 → 社会の探究 (キャリア教育 (自らの自分、大卒にしたい価値観、職業意識の醸成))
- 自分事として関心を立てる力 → 自然の探究 (プレゼンテーション (PowerPoint等の基礎的知識と演習))
- 他者に共感する力 → データサイエンス (データリテラシー) (情報教育、統計学、Excel・Tableauなど)
- 多様な意見を尊重する力 → 総合英語 (英語運用能力) (英語運用能力) (英語運用能力)
- みずからの主眼を尊重する力 → リーダーシップ (リーダーシップの理解、自らの自分、自らの自分)

スライド9

前期共通教育の各科目の授業目的

MAKE YOUR UNIVERSITY 大正大学

●探究科目(人間・社会・自然) I～III 各探究6単位 選択必修

授業は2名の教員によるチームティーチング【共通パート】と【専門パート】で構成

【共通パート】
大学での学びや社会で活躍する上で土台となるスキル・能力を学び、専門パートの学びに活かす
◎「ソフェナリクススキル(汎用的能力)」を教える教員(共通パート担当)が担当

【専門パート】
科目ごとに設定されたテーマの学習をつうじて、共通パートでの学びをより深め、統合される
◎「科目ごとの専門テーマ」を教える教員(専門パート担当)が担当

科目名	授業目的
人間の探究 I	科目の「テーマ」に即して、人類が蓄積してきた「文化」について学びながら、世界や日本・地域、そして他者・自己を捉える視点を養うことで、大学での学びや将来の生き方を見定めるための「自分自身を理解する力」を身につけていきます。
人間の探究 II	
人間の探究 III	
社会の探究 I	科目の「テーマ」に即して、変動の激しい現代社会をさまざまな視点から理解するとともに、私たちがどのように生きていくか、多様な他者と協働していくかに社会を作っていくかについて学びます。
社会の探究 II	
社会の探究 III	
自然の探究 I	科目の「テーマ」に即して「自然」をめぐるさまざまな問題について学ぶとともに、大学で求められるレポート・ライティングのスキルについて学ぶ。それぞれの学期末にはこれら2つの学びを統合させ、科目テーマに即するエッセイを書くことに取り組みます。
自然の探究 II	
自然の探究 III	

スライド10

前期共通教育の各科目の授業目的

MAKE YOUR UNIVERSITY 大正大学

●データサイエンス I～VI 6単位 必修

授業は2名の教員によるチームティーチング

実際の社会現場でTableauやExcelを活用してデータドリブンの意思決定に基づき業務遂行する実務家教員や統計分析等の実証研究を主な手法とする専門教員が2名体制で担当

情報リテラシーと統計の基礎を学びながら、論理的思考力を高め、データを用いて社会の課題を解決する力を育成します。

科目名	授業目的
データサイエンス I	自らとデータサイエンスをつなぐ道を開くために、データとは何なのか、データを活用するとはどのようなことなのか、統計の基礎をベースにExcelでの情報処理、Tableauでの可視化を通じて学ぶとともに、PCやデータ利活用の際に必要となる情報リテラシーも同時並行で学びます。
データサイエンス II	
データサイエンス III	
データサイエンス IV	データサイエンスVI終了時にはデータをもとに意思決定を行うデータドリブンの思考を高め、社会の課題を解決し、価値を創造していく基本的な力がつくよう、統計分析や論理的な思考スキルを身に付け、課題の発見や解決、社会への価値創造につながる仮説の構築を、実データを使った演習を通じて習得します。
データサイエンス V	
データサイエンス VI	

スライド11

前期共通教育の各科目の授業目的

MAKE YOUR UNIVERSITY 大正大学

●総合英語 I～III 3単位必修

国内外で多様な文化および価値観をもった人々とのコミュニケーションに対応できる力を涵養します。

科目名	授業目的
総合英語 I	多様なトピックの中から、英語の語彙や表現を学び、英語を使った活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけます。また、e-learningを活用して、主体的な自学自習による語学学習の学習習慣の養成を目指します。
総合英語 II	
総合英語 III	

●リーダーシップ I～III 3単位必修

リーダーシップの多様性を理解し、自らの目指すリーダーシップ像を再構築した上で、自己理解を深めて、卒業後の進路を熟考、検討しながら社会への移行に向けて準備をおこないます。

科目名	授業目的
リーダーシップ I	リーダーシップの多様性を理解し、自身の目指すリーダー像に向けて「人間の探究」科目で取り組んだ「自分自身を理解する力」をさらに深め、卒業後の進路について早期から検討することで、卒業後のキャリアプランと行動計画を立て、より自律的な3年次の学習につなげることを目指します。
リーダーシップ II	
リーダーシップ III	

スライド12

2.多様な人材による前期共通教育カリキュラムの運営体制

スライド 13

知識集約型社会を支える人材育成の採択事業と科目の関係

～新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業～

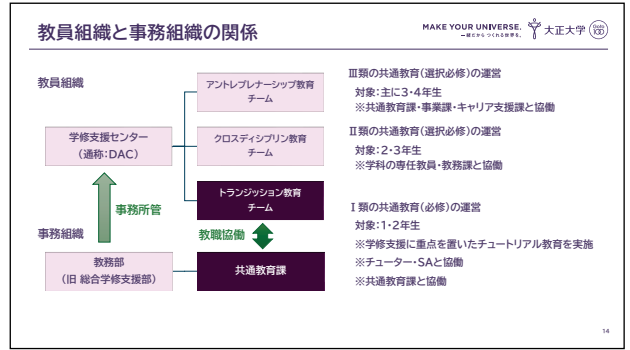
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

本学の目指す新時代の人材像を「地域戦略人材」＝「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて具体的な専門分野の多様な人材を育成し、活躍する新しいリーダー」(定義)し、その育成のため、第Ⅰ類共通教育科目、第Ⅱ類科目学融合教育、第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育を推進する。

第Ⅰ類科目	第Ⅱ類科目	第Ⅲ類科目
第Ⅰ類科目(チュートリアル教育・チームティーチング) 27単位必修 探究科目、データサイエンス、リーダーシップ	第Ⅱ類科目(学融合教育) 4単位必修 学融合セミナーⅠ・Ⅱ	第Ⅲ類科目(アントレプレナーシップ育成教育) 24単位必修 起業人材コース、企業内リーダーシップコース、パブリックコース

※ 大正大学では、前期共通教育科目を第Ⅰ類科目と称し、全学必修としている。

スライド 14



スライド 15

大正大学のチュートリアル教育

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

【定義】 学生が生涯主体的に学び続けるために、自律的に学ぶ姿勢を身につけることを目標として、学生一人ひとりの学びを総合的に支援する教育体制

※ チューターとは
 定義: 一人ひとりの学びと成長を支える総合的学修支援者
 目的: 学生が自律した学修者として成長するための支援
 役割: 教員・職員と協働して支援する「第3の人材」
 種別: コアチューター(任期制専任職員)、クラスチューター(臨時職員)
 ※一人ひとりの学びと成長の伴走者としてのチューターを独自に育成・採用・研修

【対象】 主な対象は前期共通教育受講の1・2年次の全学部生(留学生を含む)

スライド 16

大正大学のチュートリアル教育の全体像

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

正課の学修支援

授業内支援

- 授業準備、遅刻/欠席者対応
- グループワーク支援、個人ワーク支援
- 質問対応(PC、ICTにアプリ操作など)

授業関連支援

- 学修相談コーナー/学修に関する不定期相談
- リフレクションへのフィードバック
- スタディスキルイベント/権威の企画運営

UR-note LMSに学修情報一元化

- 出欠情報
- 課題提出情報

学修成果物(リフレクション等)

自己分析、学修目標の設定、心算りを重ね加えていく

学修支援の顕微鏡的深い層々の学生の学修状況

学修支援の顕微鏡的深い層々の学生の学修状況

学修支援の顕微鏡的深い層々の学生の学修状況

スライド 17

教員と学修支援者の主な役割分担

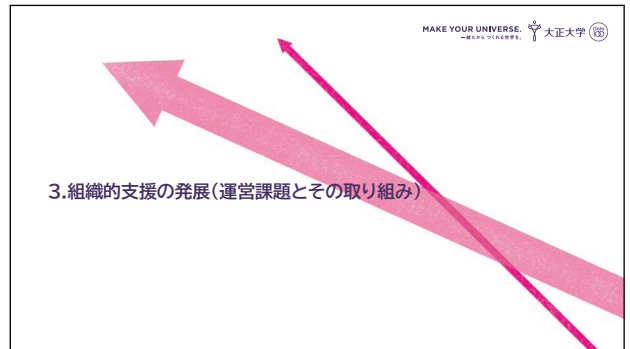
MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

学修支援内容	教員	チューター/SA	職員
・学修スキルの習得支援	◎(教育内容の一部)	○(学修支援として)	
・レポート・論文作成支援	◎(教育内容の一部)	○(学修支援として)	
・授業内容に関する学修支援	○	◎(ワークの支援)	
・資格取得(データサイエンス科目関連)	◎	○(企画運営)	
・学生相談 ※学修面以外の相談は学生支援担当		◎	
・履修指導オリエンテーション ※履修指導は学務職員	○	○	◎
・学修環境の整備		○	◎

形態

- ・集団を対象とした指導 → 教育課程(学修スキル、ライティングスキルなど)と課外の補習など
- ・個別面談・個別指導 → 定期・不定期面談、学修相談コーナー、PCカフェ等
- ・集団を対象としたガイダンスやオリエンテーション
- ・SNS等を利用した情報提供 → LMSやMicrosoft Teamsの活用、大正大学アプリなど

スライド 18



スライド 19

環境変化に対応した組織的学修支援の体制整備

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

スタートアップ期から安定期へ—これまでの取り組み・成果をあらためて検証していく時期に…

学修支援の主な取り組み	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学修支援の在り方・方針	学修支援センターの理念を念頭に各自が取り組み	2021年度より全学展開-2022年度より対象授業展開	不文律の取り組みを整理して方針策定(後半年)	全学OPの改編にともなう1階の教育目標の改訂	
夏期・冬期全員面談	半学部1年対象	全1年生対象	全1年生対象		
前期共通教育と専門教育の学修支援上の連携	4QTより4学科と実施	2QTより全学科と実施	2QTより全学科と実施	1QTより全学科と実施	
学びのコミュニティ	チューター主導の企画		学修支援センターの取り組みについて学科に理解が深遠		
チューター育成プログラム			学修支援センターが求めるチューター像とマッチしたチューター確保するための様々な工夫を模索		

19

スライド 20

組織的運営上の主な課題と取り組み

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学

- 学修支援センターと学科が連携し、前期後期共通教育と専門教育の接続性をいかに高めることができるか？
 - ➔ 前期共通教育に関する審議機関に、学科教員とセンター教員をセットで科目統括者として設置
 - ➔ 学科の連携担当者を固定化して随時学生情報を共有するツールと定期的なMTGの場をセッティング
 - ➔ LMSの修学カルテを活用して前期後期共通教育における学生個別の学修成果情報を共有
 - ➔ キャリア形成担当科目における学科教員・キャリア支援センター職員との連携、後期共通教育の情報共有
- 学生個別の実態に対し、多様な人材がチームとしていかに均質で適切な支援を展開できるか？
 - ➔ 教学執行部と現場の間に教職員からなる「学修支援担当者MTG」を設置し、不文律の取り組みを踏まえて学修支援の基本方針を明文化し、年度ごとの学生の実態に合わせた対応を方針に照らして検討
 - ➔ 採用後研修・授業前後MTG・業務前ブチ研修などでチームとしての意識合わせを実施
 - ➔ 講師会や研修で授業や学修支援のふり返りと改善のサイクルを定着させ、業務の平準化と質向上を図る
- 自律的学修習慣の形成支援に加えて、いかにして「学びの技法」支援を充実させていくか？
 - ➔ 補習(DS)や、学びのコミュニティ(探究)において各科目の到達目標に紐づく学修イベントを企画・実施

20